

富山市教育委員会 1 月定例会 資料

「平成 3 0 年度富山市中学校 3 年生学力調査」
結果の概要

富山市教育委員会

「平成30年度富山市中学校3年生学力調査」結果の概要について

I 本調査の目的

- ・各中学校が、3学年生徒の2学期終了時の学力定着状況について、実証データに基づいて把握し、今後の学習指導の改善・充実に生かす。
- ・生徒一人一人が、自分の努力すべき課題に向かって意欲的に学習に取り組むよう進路指導資料として活用する。

II 実施状況

- 1 実施期日 平成30年12月3日(月)、5日(水)
- 2 調査教科 国語、社会、数学、理科、英語
- 3 実施学校数・生徒数

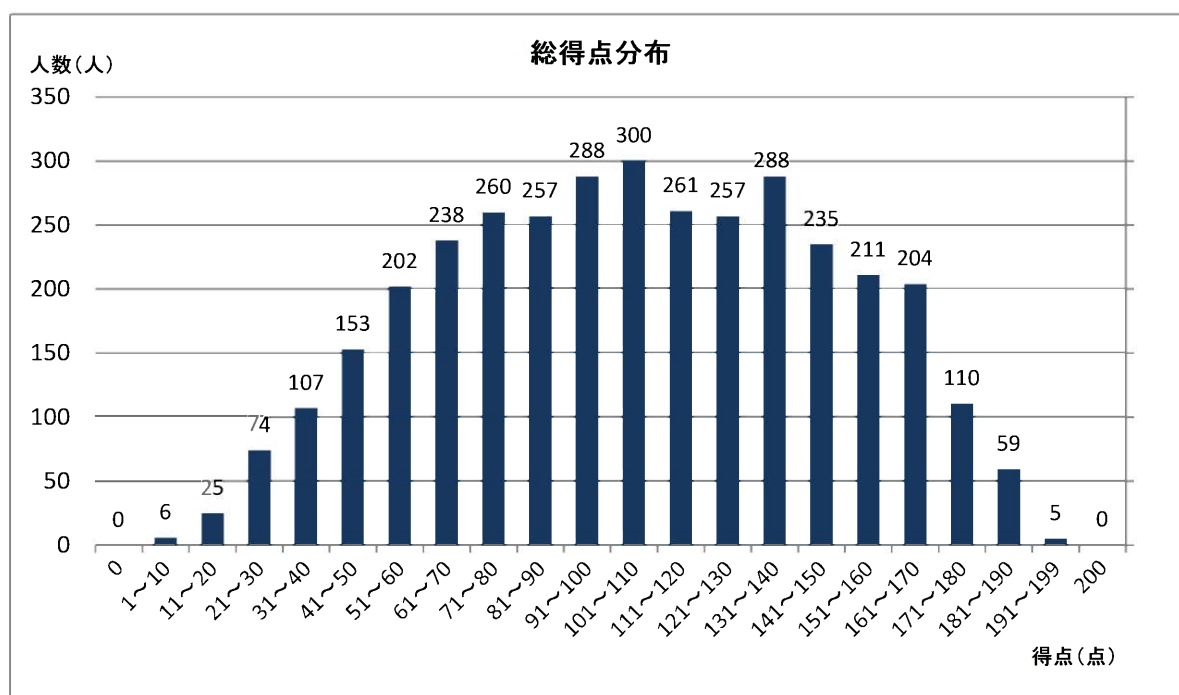
実施学校数	生徒数	
27校1分校 附属中を含む	在籍数	3,781人
	受検者数	3,540人 (5教科全てを受検した生徒数)

III 結果の概況

1 教科別全生徒平均点

国語	社会	数学	理科	英語	総得点
21.9点	21.1点	19.5点	21.3点	21.5点	105.7点

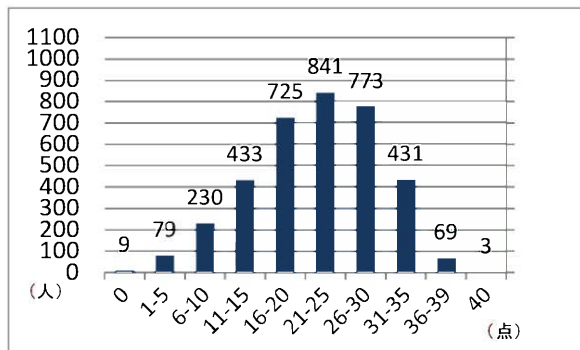
2 総得点分布グラフ



3 教科別得点分布グラフ

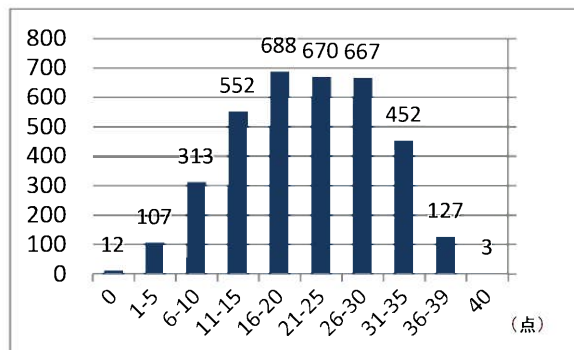
国語

平均点 21.9点 受検者数 3,593人



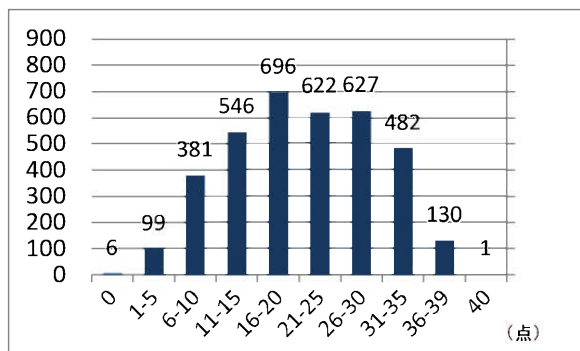
理科

平均点 21.3点 受検者数 3,591人



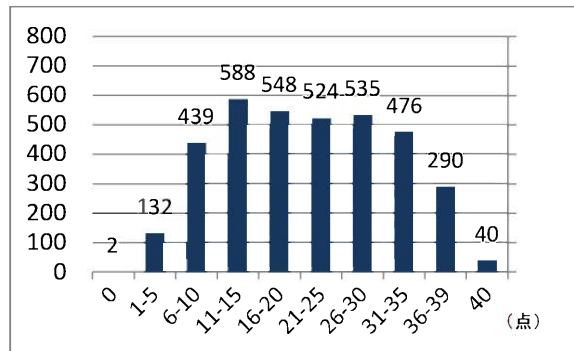
社会

平均点 21.1点 受検者数 3,590人



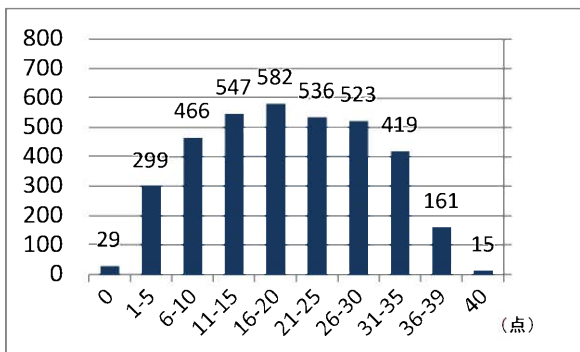
英語

平均点 21.5点 受検者数 3,574人



数学

平均点 19.5点 受検者数 3,577人



IV 結果の概要

1 抽出調査について

27中学校の各学級8人(男子4名、女子4名)をそれぞれ出席番号の早い順に1番から4番まで抽出生徒の記録としてデータを取る。欠席の場合は、出席番号を繰り上げて、必ず各学級から8人の抽出を行うものとした。

2 抽出生徒数

学校数	学級数	抽出生徒数
27校	104学級	831人

(附属中含む)

V 各教科の概要

1 教科の考察

(1) 教科全体から見た結果

「得点分布グラフ」「観点別の解答率グラフ」から読み取れる教科全体の概要について、その特徴を表記する。

(2) 正答率の高い問題

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率の高い問題について、考察を行う。

(3) 正答率の低い問題

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率の低い問題について、問題の一部を提示しながら考察を行う。

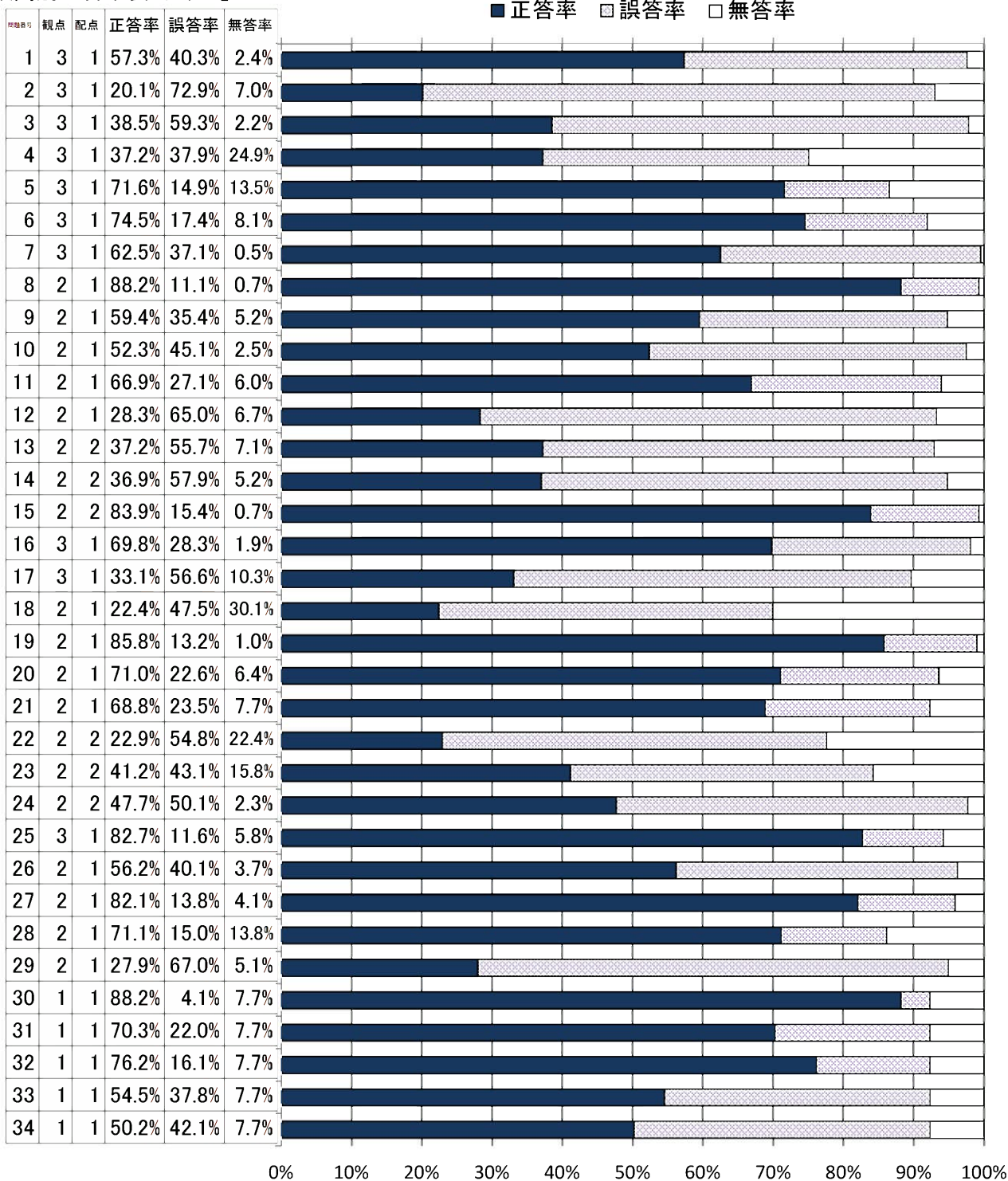
2 今後の指導

1の(3)で考察した正答率の低い問題を中心に今後の指導の工夫について表記する。

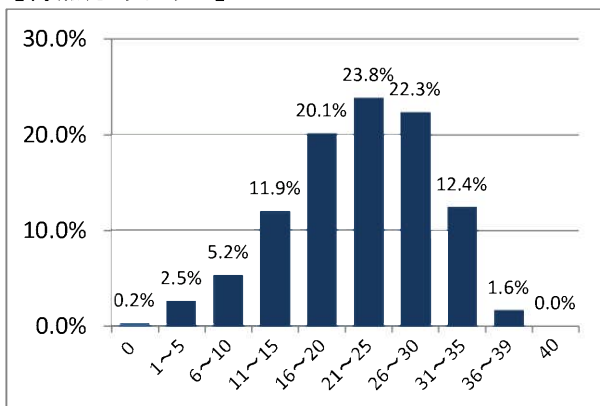
VI 抽出生徒から分析する各教科の概要

国語 抽出生徒数 831人 抽出平均 22.1点

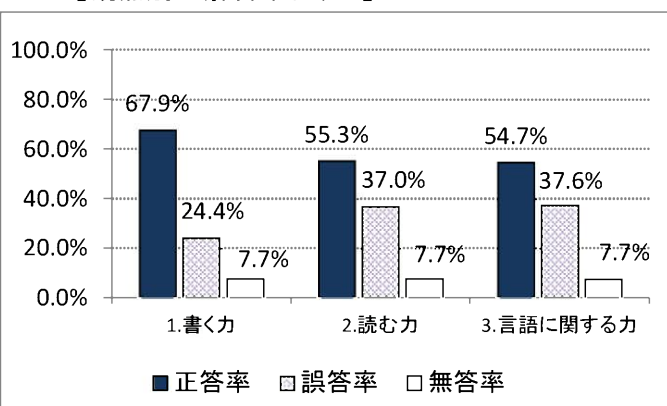
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 国語科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 22.1 点である。観点別の正答率は「書く力 (67.9%)」に比べ、「言語に関する力 (54.7%)」「読む力 (55.3%)」が低く、また、すべての観点が昨年度を下回った。観点別の無答率はすべての観点を昨年度を上回った。

(2) 正答率の高い問題について

「書く力」では、作文を二段落構成で書くことや原稿用紙を正しく使うことの正答率が高く、形式を整えて書く力が身につけている。(通し番号 30、32)

「読む力」では、説明的な文章において、適切な接続詞を選ぶ問題や、文学的な文章において、文脈に即して適切な比喩表現を選択する問題の正答率が高い。(通し番号 8、19)

「言語に関する力」では、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率が高い。(通し番号 25)

(3) 正答率の低い問題について

「読む力」では、文脈をとらえ、指定された条件で的確に説明したり、理由を答えたりする問題の正答率がいずれも 30%未満である。うち 2 問は、無答率が 30.1%、22.4%と高い。(通し番号 12、18、22)

「言語に関する力」では、漢字の書き取りより読み取りの正答率が低い傾向が見られる。特に、普段は音読みが多い漢字を訓読みで答える問題の正答率が 20.1%と低い。(通し番号 2、3、4)

(通し番号 12)

⑤ 試練 とありますが、どんなことを防ぐための試練なのですか。**文中の言葉を使って十字程度**で答えなさい。

(通し番号 22)

④ みんな話題にしなかった。 とありますが、それはなぜですか。**文中の言葉を使って四十字以内**で答えなさい。

2 今後の授業に向けて

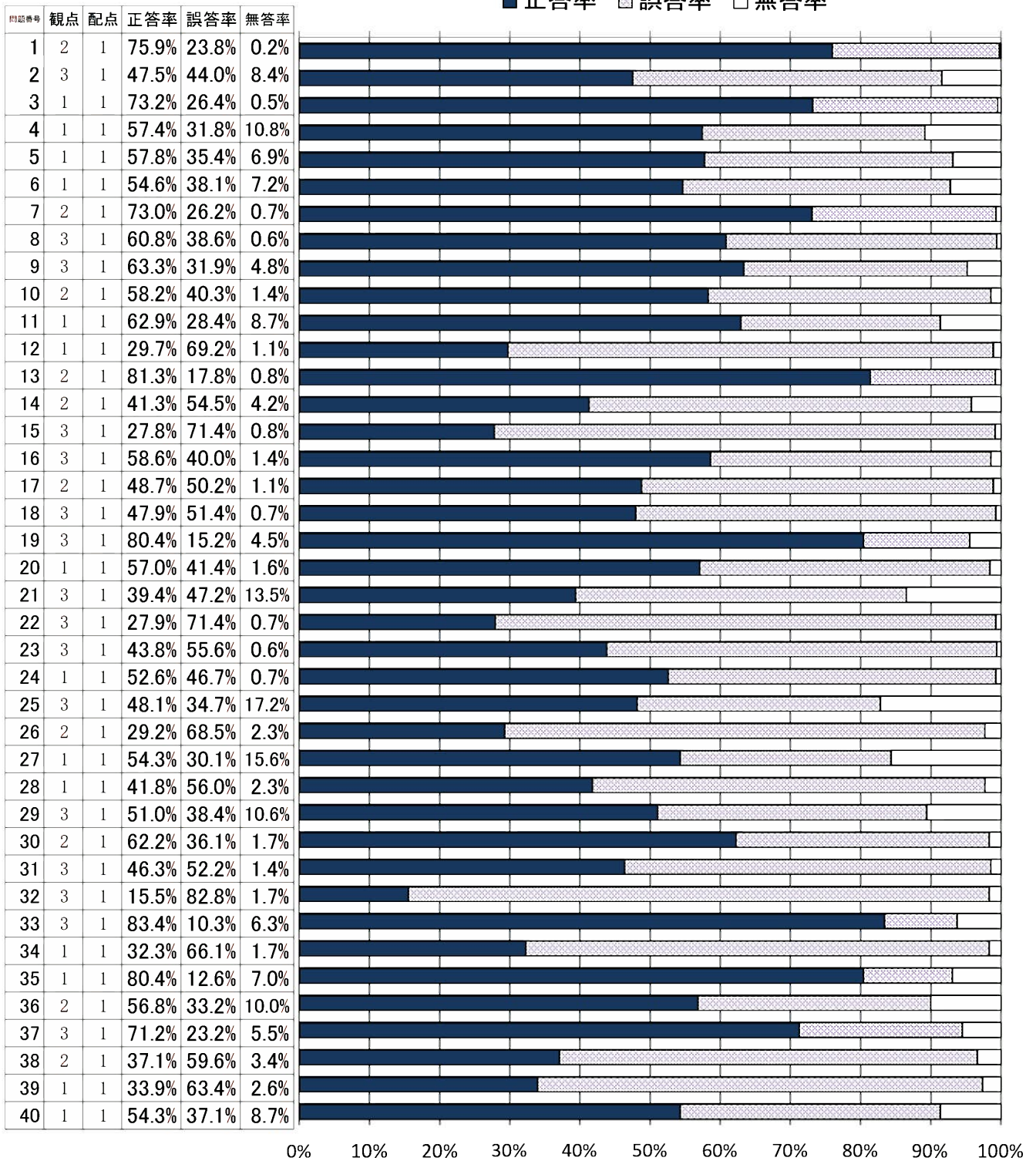
(1) 「書く力」を育成するためには、自分の思いや考えを明確にするとともに、その根拠となる事実や具体例等を整理して文章を構成する過程を重視する。また、読み手に正しく伝わる文章になっているかを推敲することも大切である。その際、原稿用紙の使い方、主述の関係、漢字の使い方、誤字・脱字等、基本的な事項についての視点ももてるように指導したい。さらに、模範的な文章にふれる機会をもち、よい文章の要件を知る活動を取り入れることも有効である。

(2) 「読む力」を育成するためには、文章中の情報を整理しながら正確に読み解く過程を重視する。説明的な文章においては、接続詞から文章展開を予想する、指示語が指す内容や筆者が論を展開する際の根拠を探しながら読む、文学的な文章においては、登場人物の心情が変化した理由を考える、比喩表現等から作者の表現したいことを推測するなど、文章を読み解く視点を示しながら指導することが大切である。また、示されたキーワードを用いて授業のまとめや振り返りを行うなど、自分の考えを端的に文章化する学習を積み重ねる指導を工夫していく必要がある。

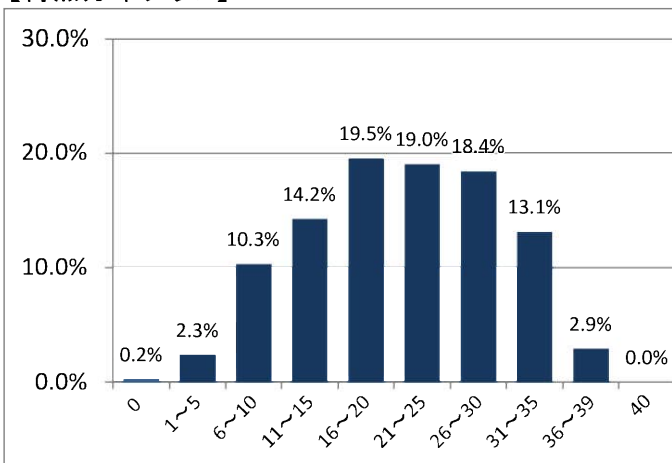
(3) 「言語に関する力」を育成するためには、漢字の音読みと訓読みの両方を理解して使うことや、日常的に使われる言葉を他の言葉で置き換えてみる習慣を身につけることで語彙を豊かにするとともに、学習したことを日常生活の中で積極的に使用していくように指導することが大切である。

【設問別正答率表・グラフ】

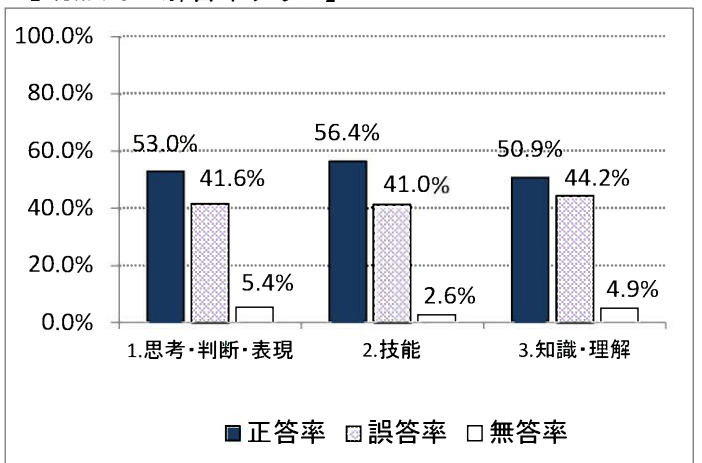
■ 正答率 □ 誤答率 □ 無答率



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 社会科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は21.2点である。観点別の正答率は、「思考・判断・表現」の53.0%（昨年度47.8%）、「技能」の56.4%（昨年度47.4%）と昨年度に比べ高くなった。一方、「知識・理解」については正答率が50.9%と昨年度（60.5%）に比べて低く、誤答率が44.2%と昨年度（28.2%）に比べてかなり高くなった。無答率が10%を超えた問題は6問で、昨年度（11問）より減少した。

(2) 正答率の高い問題について

地図から正確な位置を読み取ったり、統計やグラフにある複数の数値を比較したり、関連づけたりして資料を正確に読み取る問題の正答率が高い。（通し番号1、3、7、13、35）

(3) 正答率の低い問題について

最も正答率の低い問題は、天皇の国事行為を2つ選択する問題で、正答率は15.5%だった。（通し番号32）また、歴史的分野の多肢選択問題では、各時代の産業（農業）の様子や文化を代表する作品を選ぶ問題の正答率が低い。政治や経済に比べ、産業や文化の特色についての理解に課題がある。（通し番号22、26）

歴史に関わる事象や経済、政治の仕組み等について、その説明に合う用語を答える問題の無答率が高い。（通し番号21、25、29、36）

（通し番号22）

[4](2) **カードB**の頃の農村の様子について述べたものとして、正しいものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア 牛馬による耕作が広がったり、人の糞尿を肥料としてほどこしたりして、生産力が向上した。

イ 干潟や沼地を干拓して新田開発が進んだり、新しい農具が発明されたりして、生産力が向上した。

ウ 重い税の負担から逃れるために戸籍をいつわったり、居住地から逃亡したりする者が現れるようになった。

エ 貨幣を使う機会が増え、商人との取引に成功したことで、地主になる者が現れるようになった。

カードB

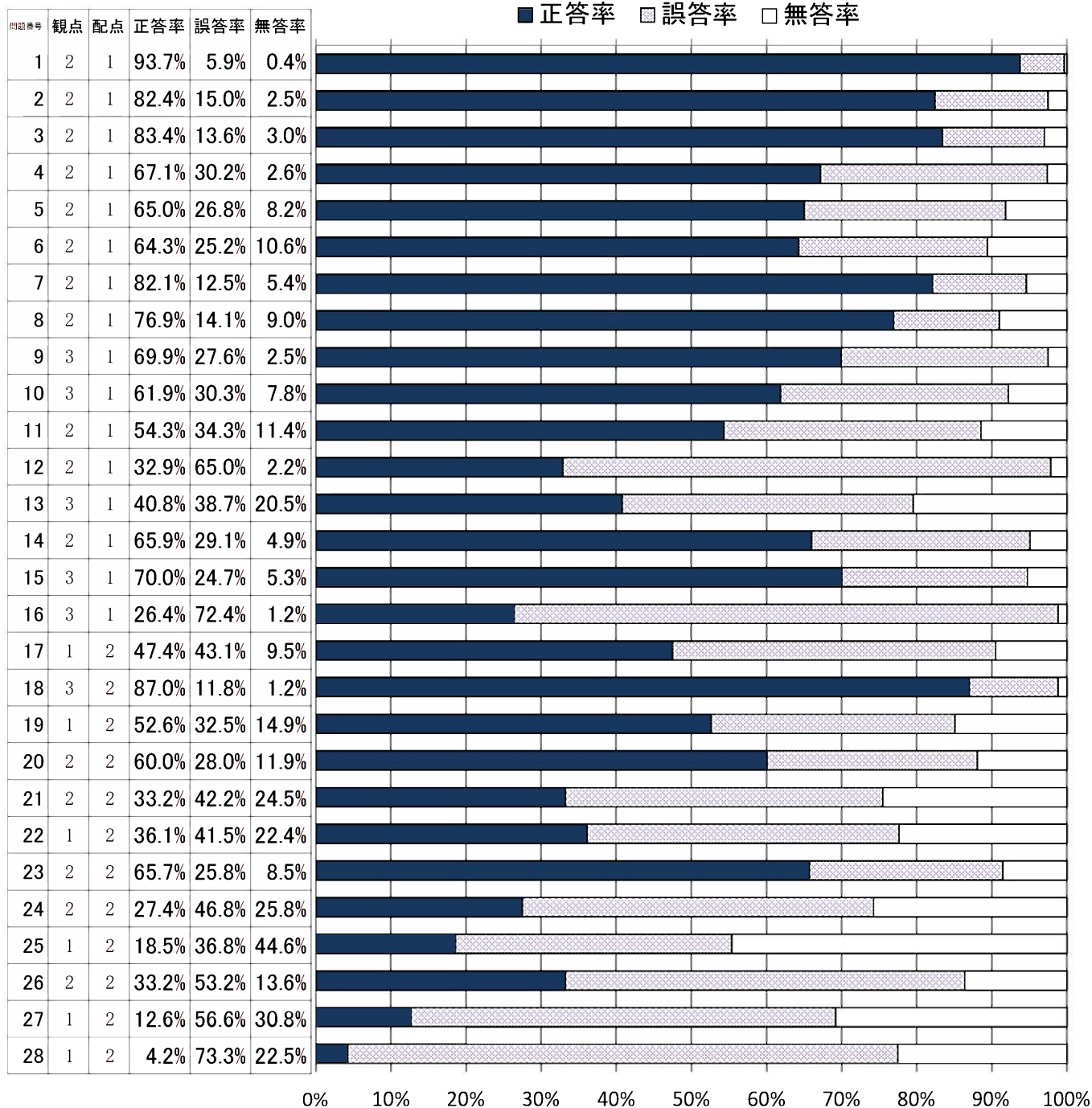
応仁の乱

8代将軍のあとつぎをめぐって有力な守護大名が始めた争い。各地に争いが広がり、戦国時代のきっかけとなった。

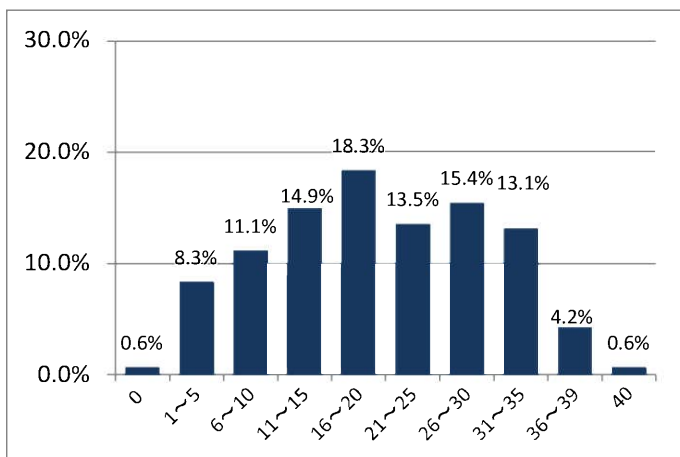
2 今後の授業に向けて

- (1) 地図を用いて地理的特徴と地域の産業や特色との関連を調べる、年表を活用して歴史に関わる事象相互の関連や影響について話し合う、同時代の日本と世界を比較し関連をとらえるなど、多様な学習を取り入れることによって、知識・理解の定着を図る。
- (2) 授業の中で、経済や政治、国際情勢等のニュースを積極的に取り上げることによって、現代社会に見られる課題への興味・関心を高め、社会的事象の意味や意義について理解を深めることができるようにする。
- (3) 歴史上の出来事や経済、政治に関する用語については、歴史的背景や概念、仕組み、働き等と関連づけて扱うことで定着を図る。また、学習した用語を使って社会的事象について考えたことを説明したり、自分の意見をまとめたりする活動を取り入れる。

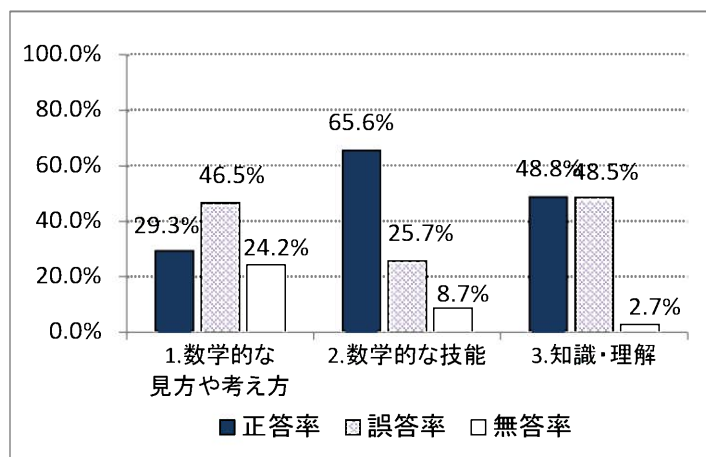
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 数学科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 19.9 点である。観点別でみると、「数学的な技能」の正答率が 65%を超えているのに対して、「数量や図形等についての知識・理解」の正答率が 48.8%と、昨年度（正答率 65.9%）よりかなり低い。「数学的な見方や考え方」の正答率は 29.3%と低いが、昨年度（正答率 25.1%）より改善された。無答率が 10%以上の問題は 12 問で変わらない。

(2) 正答率の高い問題について

「数と式」領域では、正負の数の計算、文字式の計算、根号を含む式の計算、連立方程式や 2 次方程式を解く問題、規則性をとらえて具体的な数を求める問題の正答率が高い。

（通し番号 1、2、3、7、8、18）

「図形」領域では、相似比を用いて長さを求める問題の正答率が高い。（通し番号 15）

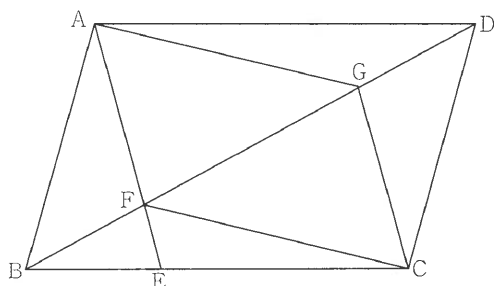
(3) 正答率の低い問題について

正答率が最も低かったのは、図形の性質を用いて、平行四辺形と三角形の面積比を求める問題で、正答率は 4.2%であった。また、図形の性質を用いて、角の大きさを求める問題の正答率が 12.6%であった。二等辺三角形の底角が等しいなどの図形の性質を用いて、複合的な図形の中にある関係を見つけることに課題がある。（通し番号 27、28）

座標平面上で、条件に合う三角形の面積を求める問題は正答率が 18.5%で、無答率が 44.6%と最も高かった。与えられた条件から三角形のどこを底辺と見るか、底辺が等しい場合は高さの比が面積比と等しいと考えることに課題があったと考えられる。関数に関する性質と、図形に関する性質を併せて活用する力が必要である。（通し番号 25）

（通し番号 27,28）

〔7〕下の図で、四角形 ABCD は平行四辺形で、点 E は $AB = AE$ となる辺 BC 上の点である。また、点 F、G は対角線 BD 上の点で、 $\angle BAG = \angle DCF$ である。このとき、次の問いに答えなさい。



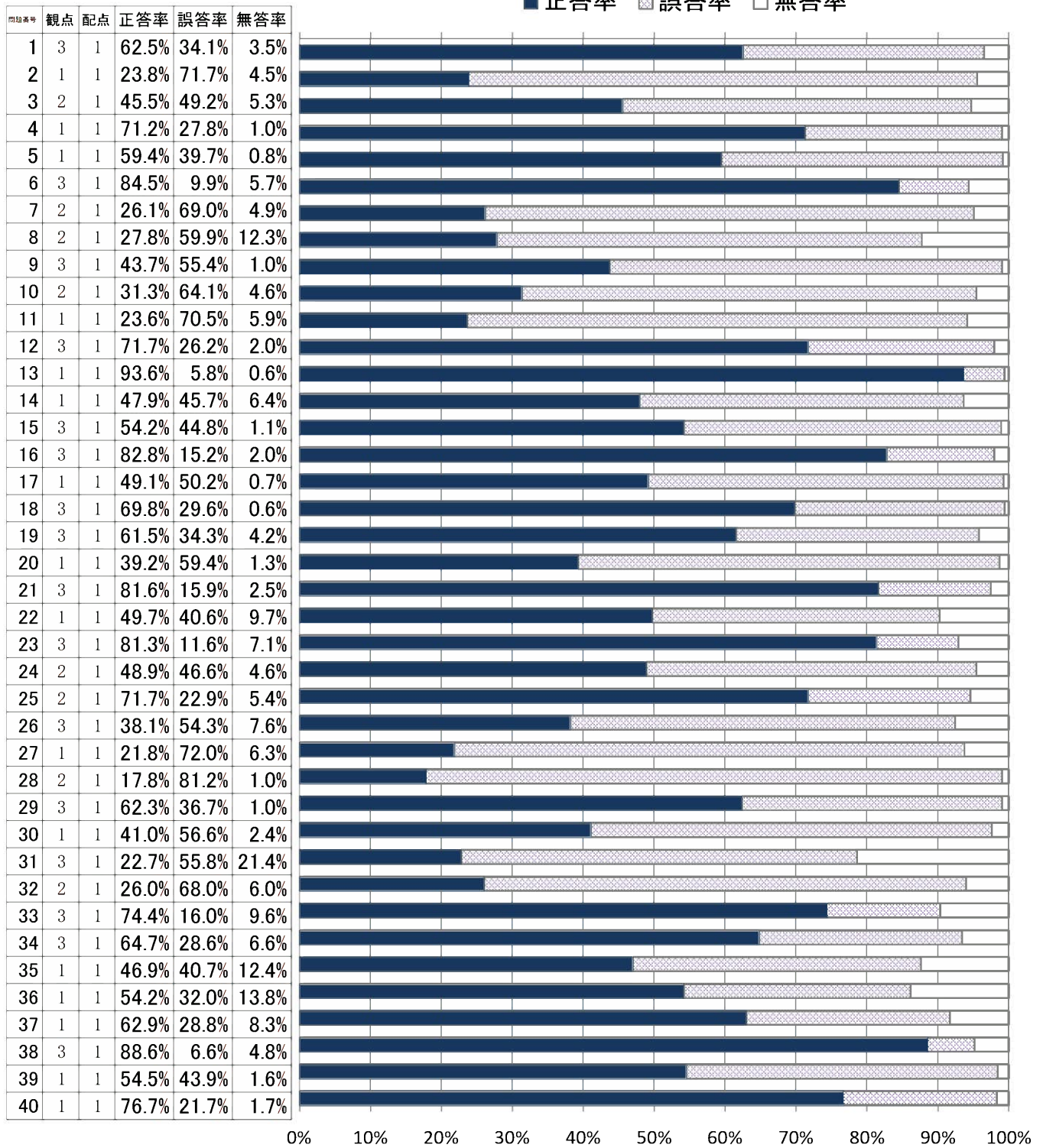
(2) $\angle BAF = a^\circ$ とするとき、 $\angle FAD$ の大きさを a を用いて表しなさい。

(3) $BE : EC = 1 : 3$ のとき、平行四辺形 ABCD の面積は $\triangle FCE$ の面積の何倍か求めなさい。

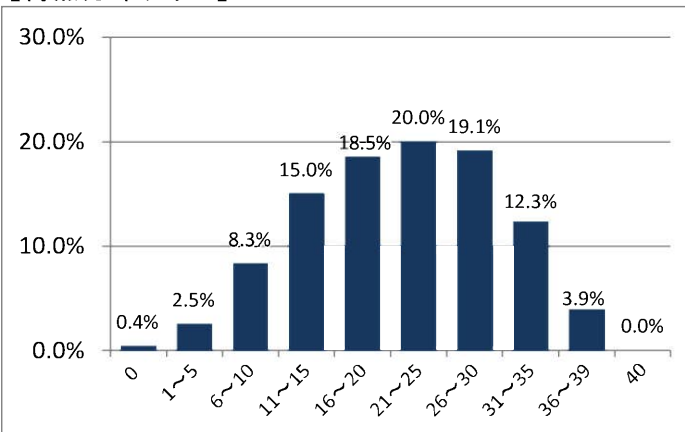
2 今後の授業に向けて

- (1) 「図形」領域の学習では、観察や操作を通して図形の基本的な性質を見いだしたり、性質の関連を理解したりする学習を大切にするとともに、複合的な図形の中から合同や相似な三角形を見つけるなど、図形を論理的に考察する力を身につけるようにする。
- (2) 「数と式」領域の学習では、形式的な処理の習得にとどまらず、数量関係を表や線分図で表し、その関係を明らかにして立式する過程を大切にする。また、式を基に、数値の意味や思考の過程について話し合って解釈するなど、式を読み取る学習活動も必要である。
- (3) 「数学的な見方や考え方」を育てるために、日常生活や社会の事象あるいは数学の事象から問題を見だし解決する活動の過程で、言葉や数、式、図、表、グラフ等の数学的表現を用いて、論理的に説明し伝え合う場面を設定することが必要である。その際、生徒の説明に耳を傾け、その推論の過程を簡潔・明瞭に表現できるように学年に応じた指導をする必要がある。

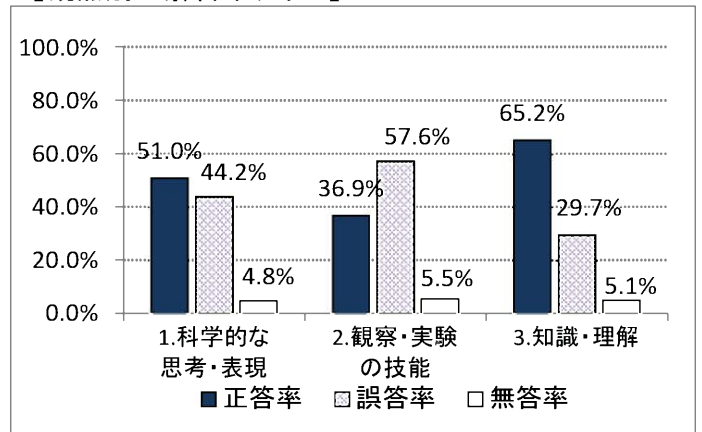
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 理科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 21.6 点であり、観点別では「観察・実験の技能」の正答率が 36.9% で、昨年度の 39.8%と同様低い傾向にある。「知識・理解」の正答率は 65.2%で、基礎的・基本的な学習内容が概ね定着していることがうかがえる。無答率 10%以上の問題は 4 問で昨年度より減少しているものの、無答率が 21.4%と高い問題がある。

(2) 正答率の高い問題について

「物質の量の名称」「地震のゆれの記録と震源地の距離の関係」「動物の進化に関する器官や名称」「位置エネルギーと運動エネルギーの和の名称」に関する問題の正答率が高い。学習内容を理解し、用語等を習得するなど、基本的な概念が身につけていることがうかがえる。(通し番号 6、13、21、23、38)

(3) 正答率の低い問題について

「電気分解の実験で使用する水溶液」の問題では 4 つの水溶液から選択する問題であったが、正答率が 17.8%と低い。実験において、物質の性質や使用する意図について確実に指導することが大切である。(通し番号 28)

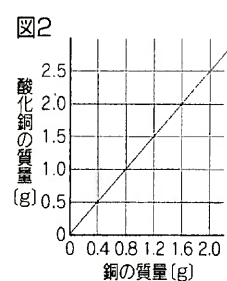
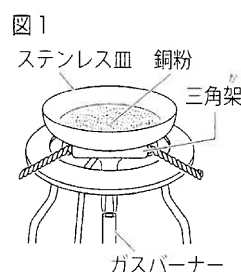
「中和反応による生成物」について化学式で表す問題の無答率が 21.4% (誤答率 55.8%) と高く、イオンの意味を理解し、化学式を使って生成する物質を導き出すことに課題が見られる。(通し番号 31)

「銅の酸化による重量変化」の問題では、正答率が 21.8%と低い。グラフから銅と酸素の結合のきまりを見つけ、比に表すなどし、その関係性を理解した上で、酸素と結びついた銅の量を計算して導き出すことに課題があると思われる。(通し番号 27)

(通し番号 27)

〔7〕 図 1 のように銅の粉末を空気中で十分に熱した。図 2 はそのときにできる酸化銅と銅の質量の関係をグラフで表したものである。

(4) 2.4 g の銅を熱したところ、加熱後の物質の質量は 2.8 g であった。このとき酸素と化合しなかった銅は何 g か。



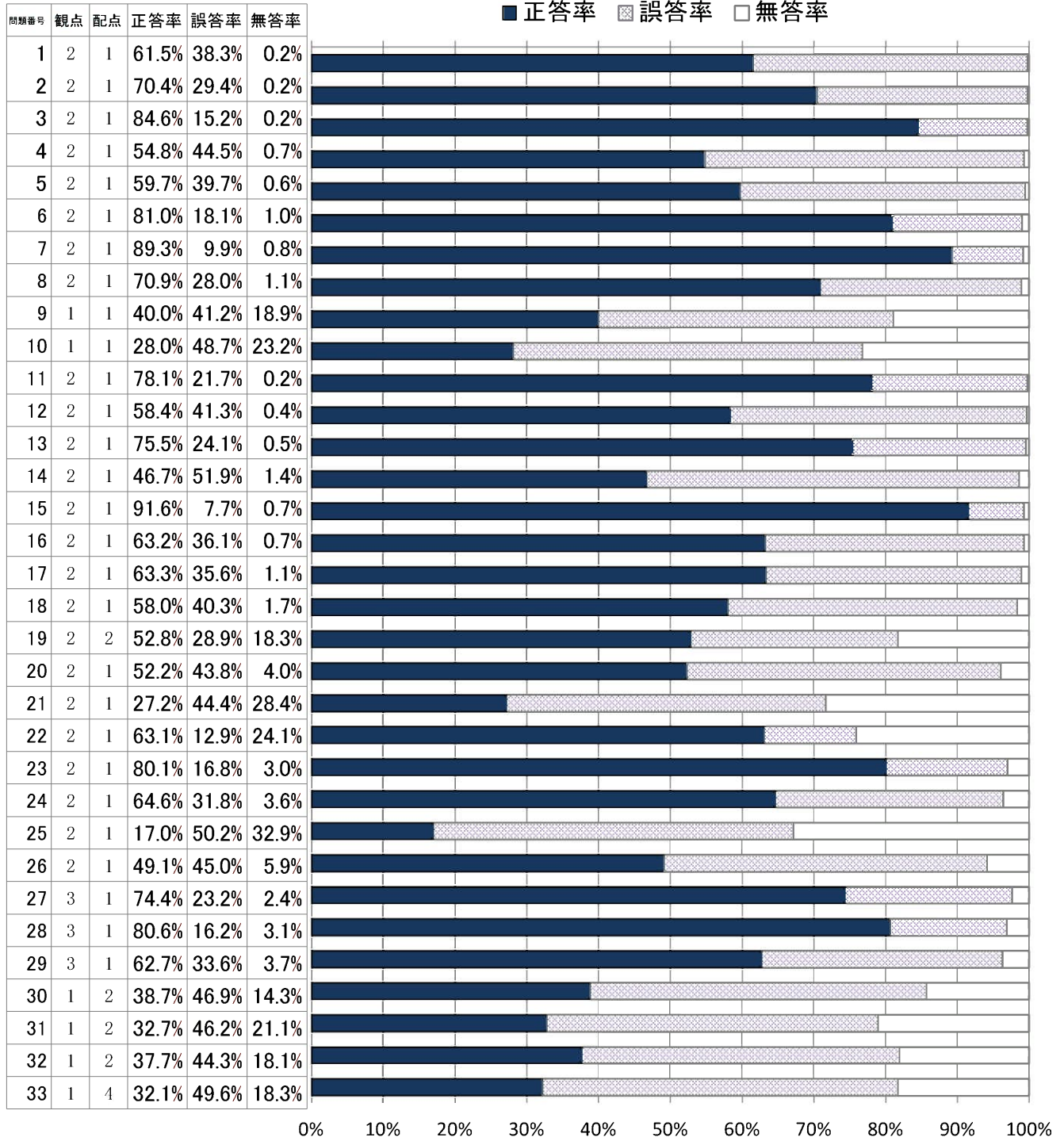
2 今後の授業に向けて

(1) 「エネルギー」「粒子」の分野では、これまで習得してきた知識・技能を活用しながら繰り返し観察・実験を行い、自然の事物・現象の変容する要因を明らかにしていく。その際、その変化について図やグラフ、表の数値等で表し、イメージがより確かになるよう指導していく。そして、変容をもたらす要因や物質の関係性について数学的に処理を行い、問題解決を図るようになる。

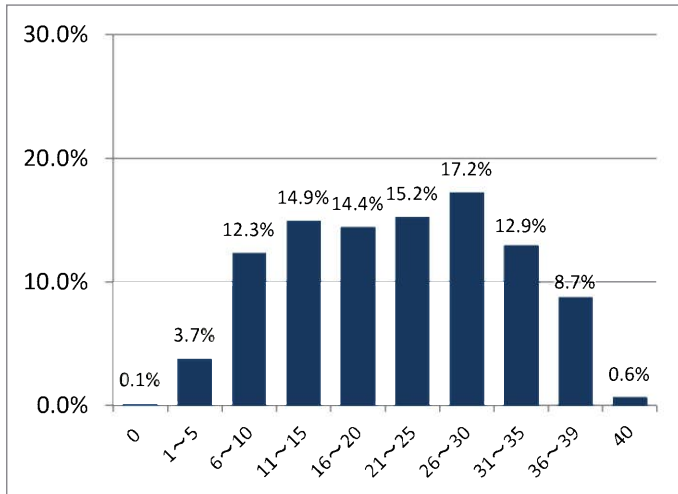
(2) 「生物」の分野では、単に用語を覚えるだけでなく、例えば、植物のつくりと働きについて実験や観察を丁寧に行いながら、その合理的なつくりのよさを感じ取るなどして、確実な理解に結びつけるようになる。

(3) 「地球」の分野では、地震の要因や天候の変化について、記録データを丁寧に読み取り、その意味を正しく理解できるようにする。また、自身や津波などを地球規模でのプレートの動きと関連させて扱うなど、自然の事物・現象を地球の営みとしてとらえることができるようになる。

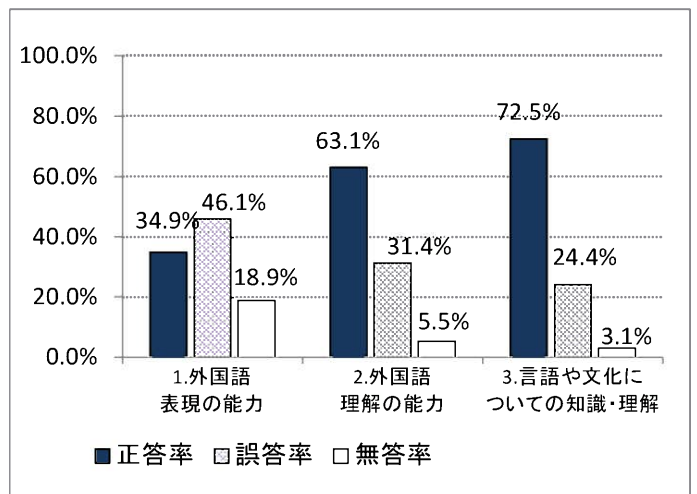
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 英語科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は21.7点であり、基礎的・基本的な学習内容が概ね定着していることがうかがえる。観点別では、「言語や文化についての知識・理解」の正答率が72.5%であるのに対し、「外国語表現の能力」のは34.9%と低い。また、「外国語表現の能力」の無答率が18.9%と昨年度(19.9%)とほぼ同じである。

(2) 正答率の高い問題について

正答率が70%を超えた問題は11問あり、そのうちの9問が「外国語理解の能力」の問題である。英文や対話文を聞いたり読んだりし、その内容の正誤について答える問題や文脈に合う語や英文を選ぶ問題の正答率が高い。日ごろから内容的にまとまりのある英文を聞いたり読んだりすることで、全体の概要や内容の要点をとらえることができるようになっている。(通し番号2、3、6、7、8、11、13、15、23)

(3) 正答率の低い問題について

聞いたり、読んだりした英文の内容を理解し、自分なりの意見や理由を英語で答える問題の正答率が低く、無答率も高い。内容を理解した上で、適切に応答することや、既習事項や経験を生かして適切な英語で自分の考えを表現することに課題がある。(通し番号9、10、33)

ALTとの日常的なやり取りについて、英語で表現する問題の正答率が38.7%、32.7%、37.7%と低く、無答率も14.3%、21.1%、18.1%と高い。会話の流れを理解することや、場面に応じた適切な会話をすることに課題がある。(通し番号30、31、32)

(通し番号9、10)

これから、ALTのグリーン(Green)先生がスピーチをします。スピーチの最後にGreen先生が2つの質問をします。それぞれに対するあなたの答えを、英語で書きなさい。

Hi, everyone. I came to Japan this April, so I've never had a New Year's holiday in Japan. I'm very excited. I have two questions for you:

Do you think you will have a good time this winter vacation?

What will you do?

2 今後の授業に向けて

- (1) 語、連語及び慣用表現等の言語材料の定着を図るために、語順や修飾関係等における日本語との違いを説明したり、関連する文法事項を整理したりするとともに、定着させたい表現等を書いて練習する時間を引き続き確保する。
- (2) 日常的な話題について、互いに質問したり、意見を交換したりして、会話を継続・発展させることができるよう、即興で伝え合う活動に繰り返し取り組む。
- (3) 様々な題材についての英語を聞いたり読んだりして、理解した内容を基に自分なりの感想を述べる活動や、賛否を明らかにしてその理由を伝える活動の充実を図る。

平成30年度 富山市民大学閉講式・特別講演会

1 日 時 平成31年2月15日（金）
午後1時30分から

2 会 場 富山市民プラザ アンサンブルホール

3 日 程

○ 閉 講 式 午後1時30分から

- ・ 開式の辞
- ・ 市民大学の歌 合唱
- ・ 閉講のことば
- ・ 来賓、市民大学講師の紹介
- ・ 講師代表あいさつ
- ・ 受講者代表謝辞
- ・ 閉式の辞

○ 特別講演会 午後2時から

演 題 南極内陸旅行

講 師 杉浦 幸之助 氏（富山大学大学院理工学研究部教授）

入場無料
申込不要

平成30年度 富山市民大学

閉講式・特別講演会

日時 平成31年2月15日(金)

閉講式 13時30分から

特別講演会 14時から(終了15時30分)

会場 富山市民プラザ 4階アンサンブルホール

特別講演会

演題 南極内陸旅行

講師 富山大学大学院 理工学研究部 教授 すぎうら こうのすけ 杉浦 幸之助 氏

プロフィール

1966年生まれ。北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程修了。北海道大学、海洋研究開発機構、アラスカ大学フェアバンクス校、富山大学極東地域研究センターを経て、2017年からは第59次南極観測隊を務める。現在、富山大学大学院理工学研究部教授。専門分野は地球雪氷学・雪氷圏科学。特に、雪氷圏を対象として、グローバルスケールでの雪氷変動や降積雪などの研究に注力している。

著書に分担執筆の『図説地球環境の事典』(朝倉書店)、『新版雪氷辞典』(古今書院)、『雪と氷の疑問60』(成山堂書店)などがある。



■主催/富山市教育委員会 ■お問い合わせ/市民学習センター ☎(076)493-3500

富山の街並み プレイバック



近年、再開発が進み急激な変貌をとげる富山市中心市街地。その変遷を、地図や写真を用いて紹介します。

会 期 平成31年2月2日（土）～4月14日（日）

休 館 日 3月13日（水）

開館時間 9：00～17：00（入館は16:30まで）

会 場 富山市郷土博物館（富山城）

観 覧 料 大人210円 高校生以下は無料

展示解説会 2月17日（日）、3月17日（日）、4月14日（日） 各日 午後2時より

